

**[成果情報名]**シマハラン林間栽培地における青葉発生率の低減法

**[要約]**シマハラン植栽後 10 年以内に株分け移植を行い、県が示した間伐指針表に基づく密度管理を行って林内の相対照度を 15 % 以上に保つことで青葉率を 30 % 以下に抑えることができる。

**[キーワード]**シマハラン、青葉率、植栽後の経過年数、相対照度

**[担当]**総合農林試験場・林業部・森林資源利用科

**[連絡先]**電話 0957-26-3330 電子メール kubayashi@pref.nagasaki.lg.jp

**[区分]**林業（特用林産）

**[分類]**普及

---

### **[背景・ねらい]**

林間栽培している斑入りハランの青葉発生率が近年高くなっており、生産者はその対策に苦慮している。そこで、林間栽培地での現地調査と植栽試験を実施して、シマハランの青葉率低減法を明らかにする。

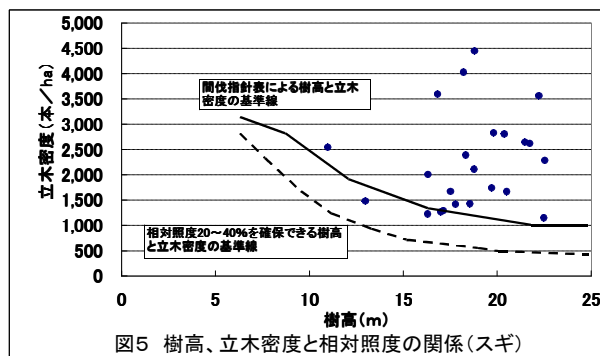
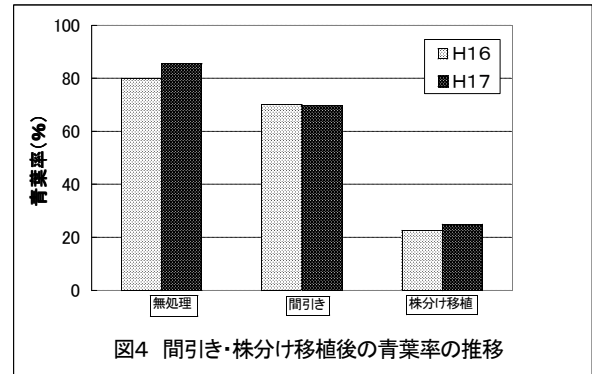
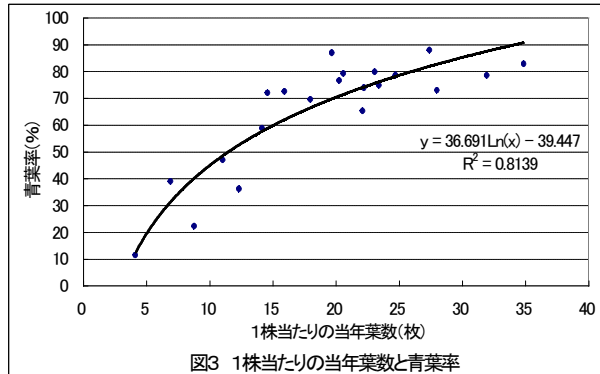
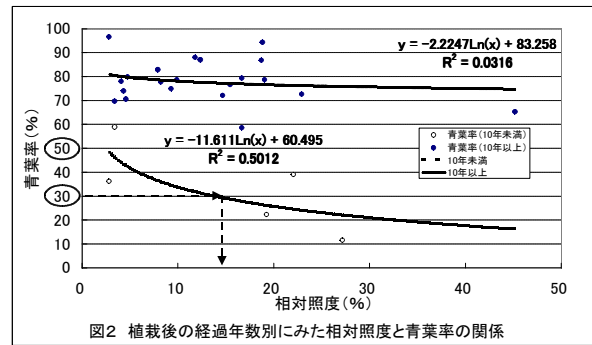
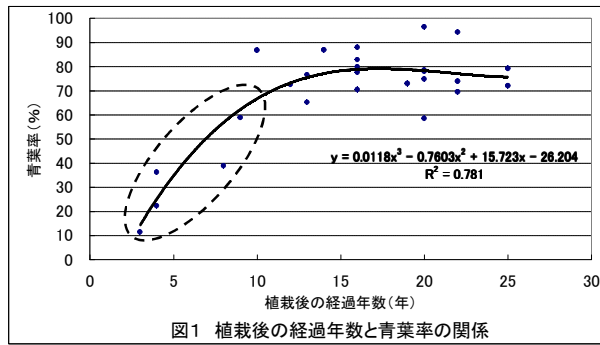
### **[成果の内容・特徴]**

1. 青葉率（（当年青葉数／当年全葉数）×100）と植栽後の経過年数の関係は、植栽後 10 年前後を境に異なる 2 グループに分けられた（ $p < 0.05$ 、図 1）。
2. 植栽後 10 年未満の株は、林内を相対照度 15 % 以上に保つ（間伐指針表による密度管理）ことで青葉率を 30 % 以下に抑えることができる（図 2）。
3. 1 株当たりの新葉数が多くなるに従って青葉率は高くなるので（図 3）、株分け移植が青葉率低減に有効である（図 4）。
4. 施肥と青葉率との相関関係はみられない。

### **[成果の活用面・留意点]**

- ・林内の相対照度管理は、今回の成果を基に間伐指針表及び相対照度 20 ～ 40 % を確保する基準線（密度管理図からの読み取り、図 5）を補完しておこなうこと。
- ・施肥は、葉の大きさや色等に関係するので「ハラン栽培技術指針（昭和 61 年 3 月）」に基づき施肥管理をおこなうこと。

[具体的データ]



[その他]

研究課題名：ハラン青葉化予防法の解明

予算区分：県単

研究期間：2002～2005年度

研究担当者：久林高市